



調布市立神代中学校学校便り

『むらさき』

令和4年1月11日

1月号

調布市立神代中学校

<http://www.chofu-schools.jp/jindaichu>

「いのちの授業」に寄せて・新年の抱負

副校長 佐伯 あつ子

12月20日（月）に行った「いのちの授業」には、たくさんの学びがありました。ご自身も難病である重藤啓子先生の歌、地域で語りなどの活動をされている楯岡眞弓先生による「大きな木」の朗読、「幸せなら手をたたこう」の作詞者でもある木村利人先生の講話、最後に楯岡先生の「エリカ」の朗読、というプログラムでした。朗読の途中途中に入った重藤さんの歌で本の中の様々な光景が目には浮かび、何とも幻想的で心惹かれる舞台となりました。

また、休憩時間には先生方を多くの生徒が囲んで、積極的に質問をしていました。中でも生命倫理学者である木村先生への「命とは何ですか」との問いに、「それはとても大事な、難しい質問ですね。僕もわかりません。だから、どうやって生きていくのか、どうやって未来をつくっていくのか、という『僕たちの生き方』を、学問として考えているんですよ」と、先生はとても優しく丁寧に答えてくださっていました。

<生徒の感想>

- ・朗読や歌声から、そこに込められた僕らへの「命について考えてほしい」というメッセージを受け止めました。大切なのは、自分の命への考えをもつことだと学びました。
- ・命の大切さについて、臓器移植や戦争などのいろいろな面から知ることができました。
- ・朗読を聞いて、心がジーンとなりました。木村先生のお話もとても有意義で、自分の命は自分が誰よりも深く考えていかなければならないと思いました。
- ・一人一人の命があるのは、たくさんの人たちに守られてきたからだとわかりました。
- ・臓器移植もユダヤ人の迫害も、自分に関係がないからと他人事にしない。迫害などは後世につなぎ、今そしてこれからの未来でも、あってはならないことだと思いました。
- ・「わからない」で済ませるのではなく、きちんと物事と向き合うことが大切だとわかりました。
- ・「幸せなら手をたたこう」が、「戦争」からできたとても深い歌だと知り驚きました。私も困っている人に優しく手を差し伸べることのできる人間になりたいと思います。
- ・人と人とのつながりが重要で、「しあわせ」という言葉を世界の人と共に考えていくことが必要だと思った。

講師の先生方の、すべての命に対する愛情が伝わる、とても温かい授業でした。そして神中生もそれを真剣に受け止め、しっかりと考えて自分の言葉で表現していて誇らしく思います。

新しい年が始まりました。私も神中生に恥じないように、同じ時代を生きる地球上の様々な命の問題に思いをはせ、自分はどう生きていくのかを考え続けます。よい一年にしていきましょう。



◇ 今後の予定

日	曜	予 定
1	土	元日
2	日	
3	月	学校閉庁日
4	火	↓
5	水	
6	木	
7	金	
8	土	冬季休業日終
9	日	
10	月	成人の日
11	火	始業式
12	水	
13	木	弁当開始
14	金	市学力調査(英)①
15	土	学校公開日 新入生保護者説明会
16	日	
17	月	
18	火	安全指導・避難訓練
19	水	
20	木	
21	金	振替休業日(1/15分)
22	土	
23	日	
24	月	移動教室前事前健康 診断①13:00～
25	火	
26	水	
27	木	都立推薦入試第2日目
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	移動教室事前指導①

古典芸能鑑賞教室(1年生)

12月2日(木)、調布市グリーンホールにて古典芸能鑑賞教室が行われました。古典芸能を初めて鑑賞する生徒が大半でしたが、日本人が古くから培ってきた伝統文化の神髄を生徒たちも感じてくれたのではないのでしょうか。



校外学習(11組)

12月10日(金)に校外学習で多摩動物公園に行きました。ミッションが配られ、キリンの赤ちゃんと写真を撮ったり、動物の足跡を調べたり、楽しく任務を達成させていました。お弁当を食べてお土産も買い、充実した1日となりました。



音楽鑑賞教室(2・3年生)

12月21日(火)、音楽鑑賞教室が行われ、東京都交響楽団の皆さんによる金管五重奏を鑑賞しました。間近で見るプロの演奏の凄さに、大きな拍手を送っていました。50分があっという間に過ぎる素晴らしい体験でした。

